

## 報告書

2019年8月2日（金）に、法律経済学科の経済学・経営学メジャーに所属する学生66名は、なめがたファーマーズヴィレッジおよびキリンビール取手工場を訪問しました。この取り組みは、2014年度からスタートし、今年で6年目を迎えます。毎年メジャー基礎ゼミナールの履修者が参加する、いわば「生きた教材に触れながら学ぶ」機会として定着しています。

重要な経済主体たる企業活動が重要な意味を持っていることは、経済学・経営学メジャーで学ぶ前提です。ところが、企業活動の実際を知る機会は必ずしも豊富でないため、この研修はこの問題を克服するとともに、体験を通じたさまざまな理解の深化をねらいとします。

学生の中には、事前に学習して現地に赴くことがあるほか、行く先では企業活動について講演が用意されていて、そこで企業活動の実際を深く学びます。また、実際の施設を見学しながら、企業の実践を目の当たりにし、成長の可能性や社会への効果などを考察していきます。ともに学ぶ仲間や教員とともに過ごす一日は、学生にとっても楽しみなようで、旺盛な好奇心も相まってさまざまな知見が得られます。

近年は、企業活動への関心が積極的に披露され、活発な質疑が展開されることもあるほか、実際に訪問先の企業に就職する学生が出てくるなどの特徴があります。6年間でさまざまな企業を訪れましたが、そこでの発見に留まらない、さまざまな成果がみられます。今年訪問した、なめがたファーマーズヴィレッジは、全国でも有数の農業の六次産業化の成功事例として注目できるほか、キリンビールは転換期にあるなか、新たな挑戦が示されました。いずれも企業の「いま」を知る貴重な経験です。この経験が必ず未来の成果につながると考えれば、今年も意義深い一日を過ごすことができました。

末筆ですが、研修のご報告をさせていただくとともに、お世話になった関係者の皆さまに感謝いたします。



